

令和5年度 長期研修研究主題

# 学校生活への適応を支える 課題予防的生徒指導の研究

～サポートチャートを活用したアセスメントを通して～



高崎市立箕郷中学校 中村 育孝

# 1 主題設定の理由

## 01 生徒に求められる資質・能力

先行き不透明で予測困難な時代

体験のないことにも対応できる力

コミュニケーション力？  
自制心？ 自己肯定感？

非認知能力

学びに向かう力、人間性等

発達支持的生徒指導

## 03 アセスメントの重要性

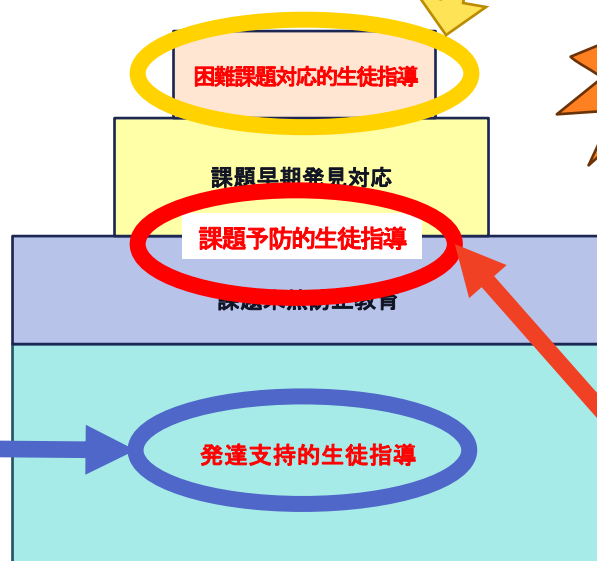
検査ツールの理解が不十分

情報共有の不足

教師間の連携の不足

場にそぐわない行動  
無気力

課題に焦点を当てた  
直接的な指導



サポートチャート  
支援方策検討のプロセスを  
示したフローチャートを作成

うまくいかない  
ことがある！

## 02 課題予防的生徒指導の在り方

授業中の対話的な問題解決

特別活動での話合いや計画立案

苦手！困難！

別の資質・能力が必要？  
何らかの特性が？

生徒のニーズ

課題を予見し  
支援方策を勘案しておく

有効な課題予防的生徒指導

日常生活の観察

検査ツールでの測定

支援

アセスメント

# 2 サポートチャート

01

## 構成と重点

### 提要：生徒指導の方法

- 児童生徒理解
- チーム支援による組織的対応
- 自助資源と支援資源

問題を一つの側面だけから見ない  
問題を一人の見方だけで考えない

### アセスメントを不十分に させてしまう要因

- 検査ツール
- 情報共有
- 教師間連携
- 特性の理解
- 非認知能力

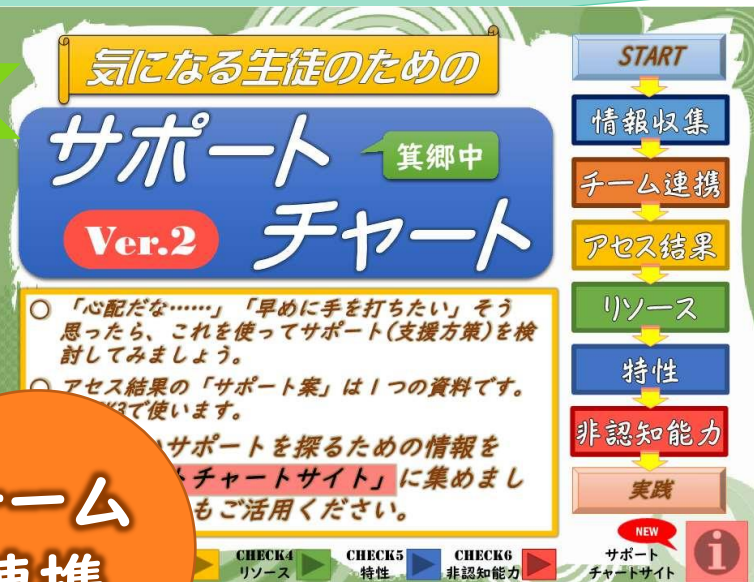
04

## サポートチャートサイト

- 継続的支援のための具体的な参考資料集
- 特性への関わり方や非認知能力の分類

02

## 各項目の要点



## 学校適応感尺度 アセス

学校環境への適応感を  
6つの側面から測定

- 偏差値に換算
- 40未満は要支援
- 因子間に相関関係

03

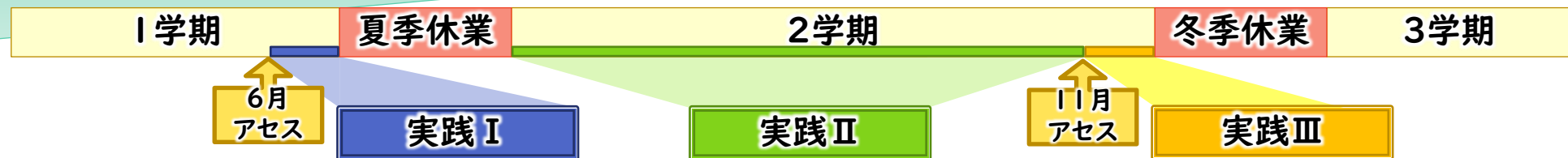
## アセスサポート案

### 先行研究において挙げられている主な非認知能力

| 種別  | 番号 | 能力       | 内容                                 |
|-----|----|----------|------------------------------------|
| 自分と | 1  | 自制心・自己制御 | 目標の達成や自分の役割を果たすために、自分を律し、コントロールする力 |
|     | 2  | ストレス管理能力 | 自分が感じるストレスを上手く処理する力                |
|     | 3  | レジリエンス   | 逆境に対してしなやかに対応し、本来の自分の状態に戻す力        |
|     | 4  | メタ認知能力   | 自分の感情や思考を客観的に捉えて言語化する力             |
|     | 5  | 主体性      | 自分の意志や判断によって責任をもって行動し、遂行しようとする意欲   |
|     | 6  | 忍耐力      | 長い時間目標に向けて粘り強く努力を続ける力              |

|   |          | 教師サ<br>ポート | 友人サ<br>ポート | 向社会<br>的スキル | 非侵害<br>の関係 | 学習の<br>適応 | 問題のポイント | サポート案                                                             |                                                                                                   |
|---|----------|------------|------------|-------------|------------|-----------|---------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 生徒<br>氏名 | 40         | 55         | 37          | 39         | 54        | 47      | ○友人と良い関係になっていないと感じています。人との関わり方について不安を抱えているかもしれません                 | ●本人の気持ちを傾聴し、対人スキルを身に付けられる支援を取り入れながら、少しずつ友人との関係改善を図りましょう(PBISの活用、SELの充実、協力を要する活動など)                |
| 4 | 生徒<br>氏名 | 41         | 38         | 61          | 39         | 41        | 28      | ○担任の先生と良い関係になっていないと感じています。また、学習の状況に不安を感じており、人との関わり方にも不安を抱えているようです | ●話しやすい先生が、本人の気持ちを、人との関わり方や学習面の不安と共に傾聴し、少しずつ担任との関係改善を図りましょう(生活ノートでのメッセージ、PBISやピアサポートの活用、協同学習の充実など) |

# 3 仮説Ⅰの検証



## 実践Ⅰ

サポートチャート活用件数

134件

### 生徒のニーズの把握

|             |          |
|-------------|----------|
| 日常の観察から     | 11人(8%)  |
| アセスとサポート案から | 78人(58%) |
| 両方から        | 45人(34%) |
| 計           | 134人     |

アセスの結果と  
アセスサポート案を  
活用

支援生徒数

支援内容と改善した生徒数(延べ)



- 本人の不安や課題を傾聴、問題に触れない間接的支援
- 本人の不安や課題を傾聴
- 本人の不安や課題を傾聴、問題に触れ間接的支援
- 不安や課題には触れず、本人に間接的支援
- 本人と保護者に直接的なアプローチ
- その他

- 心配いらな思われていた生徒の不安感等に気付くことができた
- 生徒の様子や行動からその背景や原因について考えるようになった

一歩踏み込んだ丁寧な支援方策

- 気付くことが難しい子どもの問題を、サポート案を読んで把握できた
- 休み時間等に子ども達の様子をよりよく見るようになった
- 気になる生徒について小さなことでも先生方に相談するようになっている

- 47%の生徒の不安や課題が改善
- 教師の支援に変化

サポートチャートの有効性

# 3 仮説Ⅰの検証

## 実践Ⅱ

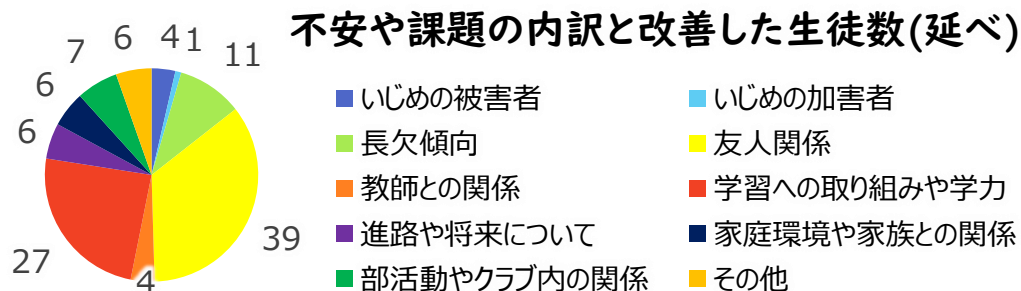
活用件数 99件

少なくとも一方が40未満となった因子得点の差の平均値

| アセス因子得点の変化 |      |     |     | 変化した生徒数 |    |    |     |    |
|------------|------|-----|-----|---------|----|----|-----|----|
|            | 1年   | 2年  | 3年  | 全校      | 向上 | 低下 | 増減  | 総数 |
| 生活満足感      | 0.4  | 5.7 | 3.0 | 3.0     | 26 | 21 | +5  | 59 |
| 教師サポート     | 8.0  | 4.4 | 7.9 | 6.8     | 29 | 11 | +18 | 43 |
| 友人サポート     | 1.5  | 7.0 | 4.1 | 4.2     | 24 | 16 | +8  | 42 |
| 向社会的スキル    | 5.5  | 6.1 | 7.1 | 6.2     | 25 | 8  | +17 | 35 |
| 非侵害的関係     | -1.1 | 8.4 | 8.3 | 5.2     | 24 | 8  | +16 | 35 |
| 学習的適応      | -2.1 | 2.1 | 0.3 | 0.1     | 36 | 21 | +15 | 66 |

全校としては向上

全校では向上が上回る



- 生徒の困り感やサポートを必要としている点に気づくことができた
- 特性を考慮して生徒の行動を考えた。具体的な支援方法を参考にした
- 非認知能力に関する部分を参考に、自己肯定感を高める支援を心がけた

- 内面の心情に踏み込んだ生徒理解
- 特性の理解と非認知能力の育成

| 支援の内容          | 支援生徒数   |
|----------------|---------|
| 不安や課題を傾聴し見守った  | 55(30%) |
| 本人と保護者にアプローチ   | 49(27%) |
| 本人に傾聴を上回るアプローチ | 46(25%) |
| 不安に触れず間接的な支援   | 17(9%)  |
| 計              | 183     |

- 保護者へのアプローチが増加
- 99人に対し183件の支援…一人あたり約1.8回

| 不安や課題の改善    | 全校      |
|-------------|---------|
| 大きく改善した     | 19(19%) |
| わずかに改善した    | 46(46%) |
| ほとんど変わらなかった | 34(34%) |
| わずかに大きくなった  | 0(0%)   |
| 深刻化した       | 0(0%)   |

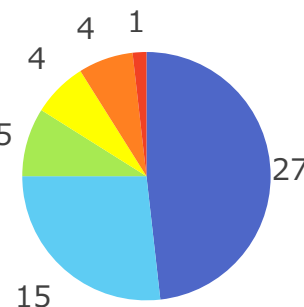
- 65%の生徒の不安や課題が改善

サポートチャートの有効性

## 実践Ⅲ

支援内容と改善した生徒数(延べ)

- 本人の不安や課題を傾聴した
- 不安や課題には触れず間接的な支援をした
- 本人と保護者に直接的なアプローチをした
- 本人に傾聴を上回るアプローチをした
- 不安や課題に触れて間接的な支援をした
- 周囲に本人への助力を頼んだ



| 不安や課題の改善    | 全校      |
|-------------|---------|
| 大きく改善した     | 3(6%)   |
| わずかに改善した    | 26(53%) |
| ほとんど変わらなかった | 20(41%) |
| わずかに大きくなった  | 0(0%)   |
| 深刻化した       | 0(0%)   |

- 59%の生徒の不安や課題が改善
- 生徒のニーズに応える支援

- サイトを活用して生徒に合ったアプローチを考えるようになった
- 「困った生徒」は「困っている生徒」と考えるようになった

サポートチャートの有効性

# 4 仮説Ⅱの検証

## 実践Ⅰで見出した生徒の全体的傾向

- 友人関係や男女間、クラス内の人間関係に悩む生徒が多い
- 教師との関わりを求めたり不満に思ったりする生徒が多い
- 学習や学力に不安を持つ生徒が多い

## 実践Ⅱ アセス因子得点の変化

|        | 1年  | 2年  | 3年  | 全校  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 教師サポート | 8.0 | 4.4 | 7.9 | 6.8 |
| 友人サポート | 1.5 | 7.0 | 4.1 | 4.2 |

## 実践Ⅱ・Ⅲで見出した生徒の全体的傾向

- コミュニケーションの取り方が分からず、トラブルやいじめに発展する傾向がある
- 自己表現の仕方が苦手で、関係性の築き方に課題がある

- 全体的傾向を見出している
- 友人サポート、教師サポートが向上
- 課題を未然防止する個別対応

サポートチャートの有効性

# 5 まとめ

## 成果

- 生徒のニーズを正確に把握 深い生徒理解につながった
  - ◆ アセスとサポート案から
  - ◆ 学年でチーム連携している様子
  - ◆ 「情報収集」「チーム連携」「アセスとサポート案」が機能
- 特性の見方に変化対応の仕方に工夫が見られた
  - ◆ 全ての実践で特性を考慮した支援
  - ◆ 適応状態の改善が認められた
  - ◆ 特性のある生徒の日頃の関わり方が支援に役立っている

## 課題と今後の展望

- どの支援がどの程度の効果を上げるのか
  - ◆ 学習・学力に対する不安
  - ◆ 「特性の理解」「非認知能力の育成」が支援の中でどのような効果があったか
- サポートチャートサイト運用期間
  - ◆ 特性への対応や日頃の関わり方、非認知能力の分類と指導・援助は効果を発揮するには時間がかかる
  - ◆ 非認知能力の育成方法を追記すれば有効活用できる